

The Open Group サンフランシスコ・コンファレンス ハイライト

* 開催日時: 2008年1月28日(月)～1月30日(水)

* 開催場所: San Francisco Fairmont Hotel

* OPEN GROUP Conference in San Francisco

<http://www.opengroup.org/sf2008/>

今回のコンファレンスの内、(A) SOA / TOGAF / Profession Skills セッションと(B) Software through Assuredness セッションについての要約をご報告します。

(A) SOA / TOGAF / Profession Skills セッション

<第1日目(1/28) ハイライト>

The Open Group の第 17 回アーキテクチャ・プラクティショナ・コンファレンスは、1月28日(月) サンフランシスコにてキックオフされた。会場の Fairmont Hotel には、近くからそして遠隔地から数多くの業界のリーダー達が集まり、テーマである“Leveraging SOA in Enterprise Architecture”に注目を集めた。以下は、第1日目のハイライトである。

○ **Allen Brown 氏、President and CEO, The Open Group のオープニング・スピーチ**

氏は先ず、発足1年前で AOGEA (the Association of Open Group Enterprise Architects) のメンバが 5,000 人を超えたことを発表し、また昨年1年は、The Open Group のメンバにとっても、さらに Sun Microsystems と HSBC Bank の 2 社のプラチナ・メンバが増え、大変良い年であった。

○ **Lauren States 女史、Vice President of Skills and Capabilities on the IBM Client Value Team**

Allen Brown 氏に続いて、Lauren States 女史が“Technology, Methodology and Independent Assessment of Enterprise Architects”というテーマで基調講演を行った。

女史は講演の中で、グローバル市場の中での競争、成長と効率性を追求するためのプレッシャーが増えて行くことに触れ、以下のように示唆した。

現在のような経済情勢のもとでは、今こそビジネスにとって SOA が重要であり、SOA 威力は、社内のコストを徹底して低減させ、アーキテクチャが現実のものとなる。IT とビジネスの整合性が高まるにつれ、エンタープライズ・アーキテクトは今、ガバナンスや実施、管理を向上させるアーキテクチャを作ることに専念すべきである。女史はさらに、アーキテクトのスキルを評価する方法の必要性を繰り返し述べ、またそのツールの標準化について示唆し、そ

の事は The Open Group の仕事の分野であり、特に、ITAC と ITSC (IT Specialist Certification) の標準に賛辞を表した。

○ **David Linthicum 氏、Managing Partner, ZapThink, LLC**

Linthicum 氏は、オピニオン・リーダーで、SOA について 800 超の論説やコラム、週単位のブログ、ポッドキャスト、本を発行している。氏は、このイベントに、氏が実際にコンサルティングした”Leveraging the SOA in Enterprise Architecture”をもって来られた。氏は、今日の IT トラブルは決して目新しいものではないことを強調し、我々は、何年も IT に挑戦してきて、しかし、今ソリューションとして SOA をもっている。もし、SOA が適切に開発され、実行されれば、率直にその努力とコストに価値をもたらす。氏はさらに、すべての人とは言わないが SOA から利益を得ようとする組織は、SOA を“Eat and Elephant”のように一気にアプローチすべきである。このオープニング日の氏の意見については、InfoWorld の氏のブログを参照願いたい。

第1日目には、併行して以下のセッションが行われた。

- ・ “Time for a ‘stimulus package’ for SOA”
ZDNET
By Joe Mckendrick
January 28, 2008
<http://blogs.zdnet.com/service-oriented/?p=1050>
- ・ “Open Group, Enterprise Architecture Conference-Day 1”
Mike Walker’s Blog
January 28, 2008
<http://blogs.msdn.com/mikewalker/archive/2008/01/28/opengroup-enterprise-architecture-conference-day-1.aspx>
- ・ “SOA Dollar and Sense”
OnStrategies Perspectives
By Tony Baer
January 29, 2008
<http://www.onstrategies.com/blog/?p=257>

○ **パネルディスカッション**

<Moderator>

Eric Knorr 氏、Editor in Chief for Infoworld.com

<Panelists>

Tony Baer 氏、OnStrategies Principal Analyst

Dr. Chris Harding 氏、Forum Director for SOA and Semantic Interoperability at The Open Group

Joe McKendrick 氏、ZDNet blogger

David Linthicum 氏、Managing Partner, ZapThink

Thomas Morgan 氏、Enterprise Architect, Autodesk

このパネルディスカッションでは、SOA をいつ、何故着手するのかという問題をカバーし、不況下の最も弱い組織で、SOA は、箱の中のソリューションではなく、情報の相互運用性であり、BPM であり、BI および心安まるサービスという討議を行った。

○ **下記 SOA Working Group メンバーの二氏による講演が行われた。**

Tony Carrato 氏、World-Wide Chief Operations Architect, EIS SOA Advanced Technology, IBM, and SOA Working Co-chair

Mats Gejnevall 氏、Certified Enterprise Architect, Capgemini, SOA Working Group Co-chair and SOA Governance Project Co-chair

SOA Working Group の概略を話された。Gejnevall 氏は、SOA がインフラ・ワークに与えるインパクトを知りたくて、SOA Working Group を結成した。両氏は、TOGAF を進めているアーキテクトのための実践ガイド作成しているプロジェクトについて話した。SOA Working Group の努力は、メンバだけでなく、社会にも利益をもたらし、来週以降数週間以内に、オンラインのプロジェクト・ロードマップが期待できる。

○ **Minoru Terao 氏、Sr. VP, Enterprise Solution Business Unit, NEC**

午後の SOA トラックをキックオフしたのは、NEC の寺尾 実 執行役常務で、“Security Architecture in the SOA Era”というテーマで講演された。

氏は、日本における eCommerce、オンライン・ドレーディング市場について述べ、経済の活性化と共に、日本の政府などと NEC は SOA 関連のエキサイティングなプロジェクトに参画し、SOA 環境での Dependability やセキュリティ・リスクの問題を提起された。

○ **Awel Dico 氏、Bank of Montreal Canada, and co-chair for SOA/TOGAF practical guide project at the Open Group**

TOGAF トラックでは、Dico 氏が“Delivering SOA with TOGAF”というテーマで、SOA と TOGAF のシナジーを話した。氏は、SOA をサポートするための TOGAF の強化策のいくつかのキイ・ポイントを話した。

○ **David P. Butler 氏、Chief SOA Evangelist, HP Software, U.S**

氏は、業界での価値あるフィードバックとして、氏のカスタマ経験と SOA の実行によるカスタ

マのインフラの変革の可能性、データ・センターのインフラ、Service-oriented Infrastructure (SOI) について”Architecting for SOA and SOI”というテーマで講演した。

- **Charles Jobson 氏, Manager of the Enterprise Architecture Team, AB Volvo, Sweden**
氏は、Volvo 社において、EA の定義を如何に行ったかを話し、Volvo 社の IT 組織は、ガバナンス、需要と供給に基づいて作られた。Volvo 社は結果として、エンタープライズ・アーキテクチャを戦略的ツールとして、Volvo Group Business に挺子入れできた。Volvo の EA の成功の鍵は、Corporate Integration Office の確立につながった。
- **Mike Walker 氏, Architecture Strategist-Global Financial Service, Microsoft, US**
氏は、”A Practitioner’s Guide to SOA”というテーマで、規定から拡散への傾向と如何に組織が情報を雲の中に押しやるかを話し、近々オンラインで可能になる新しい Microsoft business process alliance について触れた。

<第2日目 (1/29) ハイライト>

第2日目は、“The Value of TOGAF”の基調講演で始まった。

Allen Brown 氏、CEO, The Open Group のオープニング・スピーチに続いて、Chris Greensdale 氏、CLARS Limited により、The Open Group のさまざまなフォーラムやワーキング・グループが紹介された。最初にスポット・ライトがあてられたのは、Business Architecture ワーク・グループで、Dave van Gelder 氏、Global Architect, Capgemini がこのグループの最新の成果を紹介した。

- **Terence Blevins 氏, Lead Architect, The MITRE Corporation**
氏は、TOGAF がエンタープライズ・アーキテクチャ分野で如何に優位性があるかをというテーマで基調講演を行った。氏は、米国で人気のあるゲーム・ショウ’ Jeopardy’ の風刺画像を使って、エンタープライズ・アーキテクチャの世界をユーモアたっぷりに説明し、特に3人の論争者をハイライトした。即ち、答えに死のもの狂いで反発するカスタマ、真に EA を信じ答えを提供するベンダ、EA を実施にもっていくための意見をまとめている人々である。
- **Chris Forde 氏, Chair of the Architecture Forum**
氏は、The Open Group の Architecture Forum の目標・最新ニュース、当フォーラムが現在検討している主なトピックス、課題を議論した。

○ **TOGAF エンドユーザー パネルディスカッション**

＜モデレーター＞

Allen Brown 氏、CEO, The Open Group

Chris Forde 氏、VP Integrator, SDN-T Strategy & Architecture, American Express

John Bell 氏、Enterprise Architect, Marriot International

当パネルでは、各組織で社内でのように TOGAF を利用しているかを討議した。

1つの学んだケースとしては、購買プロセスのケースで、彼等のサポートを得るために、CTO や CIO と多くの議論をすることが大切である。しかし、また、日頃の仕入れのプロセスを行っている他のキイの人々を参画させることも重要である。また、新しい仕組みを導入する際には、文化の変化を受け入れる姿勢も重要である。

組織の色々な層を参画させることにより、抵抗するよりも変化を受け入れるように組織を力づけて行くべきである。

○ **Robert Weisman 氏、CGI Partner and Executive Consultant**

氏は、“Applying TOGAF: Understanding the Framework, Advantages and Lessons Learned”というテーマで、TOGAF の性質に触れ、スキルやフレームワーク、アーキテクチャ・スタイル、標準からして、ある個人1人に合わせるのではなく、“エンタープライズ・アーキテクチャはチーム・スポーツ”であると強調した。

○ **Arnold van Overeem 氏、Certified Global Architect, Capgemini**

第2日目の午前中のセッションの締め括りとして、Semantic Interoperability Work Group に焦点を当てて、SI と UDEF の理解を深めるべく氏を講演した。

氏は、Semantic Interoperability Work Group の現プロジェクトの概要を説明した。

○ **Dave Edstrom 氏、Technical Director, Chief Technologist American Software Practice at Sunmicrosystems**

氏は、セキュリティトラックをキックオフし、参加者に対して、Identity Management のメリットを訴えた。

○ **Eli Lilly 女史、CISO**

Adrian Seccombe 氏、Senior Enterprise Architect, Securosis

Rich Mogull 氏、Principal Analyst, Securosis

3 人のスピーカーは、将来のセキュリティ・アーキテクチャに焦点を当て、今日のテクノロジーの変化は、セキュリティにどんなインパクトを与えるかを話した。

- **Judith Jones 女史、Architecting-the-Enterprise Limited, UK**
TOGAF/SOA Case Studiesトラックのホストを務めた。

- **Suresh Done 氏、Founder and President of SNA Technologies, US**
氏は、TOGAF のケーススタディとして過去2年間で体験した2社のカスタマを“TOGAF in the Automotive Industry”というテーマで紹介した。
氏の体験によると、その企業のビジネスや文化に合うように、TOGAF はカスタマイズして利用すること、又アーキテクチャは大きく作らないことが大事、最後に少なくとも、TOGAF のトレーニングと認証は重要であると述べた。

- **Brooklin Gore 氏、Chief Enterprise Architect, at Micron Technologies.Inc.**
氏は、Micron における EA の成長について Micron の EA 成熟度とオポチュニティを業界の例として説明された。具体的には、Micron の人やプロセス、プリンシプルズ、および Micron Project Methodology と TOGAF ADM の整合性を含めて Micron のオペレイティング・モデル、Micron EA の実行と次のステップを説明された。氏はさらに、家の建築の例を挙げてアーキテクチャの作り方を説明した。

- **Andrew Hateley 氏、Senior Technical Staff Member, IBM, US**
氏は、IBM SOA コンサルタントにより実施されたカスタマ・ケースおよび The Open Group の SOA プロジェクトからのベストプラクティスを含めた SOA ガバナンスを説明し、SOA のベストプラクティスとして、あなたが SOA に求めるものが何か、その求めるもののリスト追跡し、確認することが大事であることを示唆した。

- **James Odell 氏、Technical Advisor at Oslo Software**
Brian Cook 氏、the Electric Reliability Council of Texas (ERCOT)
Mihai Moldovan 氏、Product Manager, at Oslo Software
3 人のプレゼンテーターは、SOA のビジネス・アプリケーションの例とその価値について話をした。その中で、テキサス州の 2,000 万人に電力を供給している ERCOT プロジェクトの SOA 適用事例も紹介された。

- **SOA ガバナンス パネルディスカッション**
＜モデレーター＞
Andrew Hateley 氏、Senior Technical Staff Member, IBM, US

＜パネリスト＞
Kyle Gabhart 氏、Director of SOA Technologies, Web Age Solutions, US

Michael Nassar 氏、Enterprise Integration Architect, IBM, US

Stephen Bennett 氏、Americas SOA Practice Lead, BEA Systems and SOA Governance Project Co-chair

Mats Gejnevall 氏、Certified Enterprise Architect, Capgemini, SOA Working Group Co-chair, and SOA Governance Project Co-chair

4人のパネリストは、SOA 適用と成功、SOI、SOA ガバナンスと標準について火花を散らした議論を行った。彼等は、業界での経験とノウハウを参加者とともに分かち合い、SOA ガバナンス成功のために協力していくことを合意した。

○ **IT アーキテクチャ認証 パネルディスカッション**

テーマ: "ITAC from the Candidate's Perspective"

<モデレーター>

James de Raeve 氏, VP Certification, The Open Group

<パネリスト>

Chris Greenslade 氏, CLARS Limited

Roberto Rivera 氏, Master Solutions Architect and Enterprise Architect, HP

Andras Szakal 氏, Chief Architect and Certified Software IT Architect, IBM

Cristina Woodbridge 女史, IBM Worldwide IT Architect Profession Leader

ITAC のレベルをレビューした後、パネリストは、認証とその動機づけ効果の重要性を討議した。認証レベルの観点から重要なことは、アーキテクチャのスキルがすべてではなく、例えば、レベル3では、リーダーシップ・スキルや組織の中のすべての人々を如何にワークさせていくかを理解することである。

○ **Jeff Walker 氏, Executive VP and CTO at TenFold Software**

氏は、レガシー・システム (従来のシステム) から低リスクで、プログラミングせずに SOA にマイグレーションする戦略を話した。特に、レガシーのデータは、汚れていてクリーン・アップする必要があることを各企業では気付いていないことを指摘した。氏は、データ・コンバージョン・アーキテクチャの例を挙げて説明し、共通のマイグレーションの問題を回避するよう示唆した。

○ **Rainer Gimnich 氏, Executive Architect, IBM Software Group, SOA Advanced Technologies**

氏は、SOA へのマイグレーションの実践について、方法やツール、プロジェクトを説明した。例として、COBOL コードが 2,000 億ステップ存在し、アプリケーションソフトの 60%

が COBOL で書かれているという。氏は、ソフトウェアのマイグレーションは、現行のアーキテクチャを SOA アーキテクチャに変えることと同じと定義づけた。

- **Sridhar Sudarsan 氏、Executive IT Architect, IBM Software Group, Advanced Technologies**
氏のプレゼンテーション”Batch Patterns in SOA”で、第2日目の SOA トラックは終了した。氏は、過去5年間のカスタマとの経験から、SOA へのマイグレーション・シナリオのベストプラクティスを話した。

<第3日目 (1/30) ハイライト>

第3日目は、“IT Specialist Conference”と称して、The Open Group が作成した新しい ITSC (IT Specialist Certification) プログラムが正式発表された。

ITSC は、IT スペシャリストのスキル、経験を客観的に評価・認証するプログラムである。

第3日目は、Allen Brown 氏、President and CEO, The Open Group がキックオフの挨拶を行った後、下記の方々が ITSC 発表の賛辞・意義を述べられた。

Phil Stauskas 氏、Distinguished Engineer, Worldwide IT Specialist Profession Executive, IBM

Ron Tolido 氏、CTO Continental Europe & Asia Pacific Capgemini

Scott Radeztsky 氏、CTO North Central, Sun Microsystems

<パネルディスカッション>

テーマ:”the IT Specialist Profession”

<モデレータ>

Tony Baer 氏、Principal, onStrategies

<パネリスト>

Beth Gold-Bernstein 氏、VP Strategic Products and Services, ebizQ

Ron Tolido 氏、CTO Continental Europe & Asia Pacific Capgemini

Phil Stauskas 氏、Distinguished Engineer, Worldwide IT Specialist Profession Executive, IBM

Scott Radeztsky 氏、CTO North Central, Sun Microsystems

パネルでは、活発な意見が交わされた。IT スペシャリストは、プログラマより上位の職位で、効果的にコミュニケーションできる能力と、技術とビジネスを結び付ける能力も持つ必要がある。

午前中のセッションの終わりには、Allen Brown 氏から IBM が最初の ITSC 認証企業になった旨の発表があった。

- **Sheila Thorne 女史、Worldwide IT Specialist Profession Leader, IBM**
女史は、“Dealing with People You Can’t Stand”というテーマで、組織の中でおよび仕事を通じて、人とのコミュニケーションの仕方について言及された。

- **Tony Baer 氏、Principal, onStrategies**
氏は、“The Surgery Was Successful, What Happened to the Patient ?”というテーマで講演し、Project Portfolio Management (PPM) のケース・スタディを話し、また、教えることのできないコア・スキル、即ち 人的スキル、感情移入、協力、コミュニケーション、リーダーシップにも触れ、ケース・スタディの例でもこのようなスキルの必要性や IT スペシャリストの役割を述べた。

- 第3日目は、James de Raeve 氏、VP of Certification, The Open Group のクロージング・メッセージで閉会した。

(B) リアルタイムエンベデッド セキュリティ と 高度信頼性保証研究部会

SOA/ TOGAF / Profession Skills のセッションと併行して、このセッションが行われた。

【第1日目 (1/28) ハイライト】

初日は“Success Through Sharing and Cooperation”と題して RETS(リアルタイムエンベデッドシステム部会)が MILS(マルチ インデペンデント レベル オブ セキュリティ)を含めた高信頼性保証について研究交換会とした。

アーキテクチャや SOA グループがメーンをやっているので RETS の専門家集団(大学研究所、開発者、ベンダー、インテグレータ、ユーザー)だけの研究会となったが、内容はとても充実していた。

リアルタイムエンベデッドシステム部会は 60 社を超えるメンバーで 10 数年の歴史を持ち、米国防省の陸海軍の IT に関する研究・実戦部隊、NATO, DISA らの参画をえて、リアルタイムエンベデッドの世界のインターオペラビリティと QOS に関するオープン標準と認証を追及するユーザの目線を大切にしたいリアルタイムエンベデッド部会です。

主要な活動と成果としては①リアルタイム OS を POSIX レベルで確立、②リアルタイム JAVA に関する標準作成についてサンマイクロに提言し標準を作り上げた実績に、③ 米国防省情報システム庁(DISA)の IT 導入に関するオープン標準の認証などの実績を背景に、今④ Dependability Through Assuredness WG 活動が大きくなうねりを作ろうとしている。これは、米国防省の要求事項でありまた日本からトヨタ ITC の強い要求に IPA や NEC、NTT データ、

ベリサーブらの要望を私がまとめる形で、2006年10月バルセロナ会議でセルバ会議を起こし、“高信頼性保障性のテーマの形式手法のベストプラクシスを集め、整理することから標準・認証を一緒にやろうと提案したのが出発点で、その後、1年半に亘り、サンチエゴ、パリ、オースティン、ブタペスト会議に続き、2日間、世界の頭脳を集め、トヨタ ITC のユーザーの立場での高信頼性システム検証の要求事項を発表し、世界の頭脳の研究情報交換を続けた。

今回で5回目だが、2007年7月から日本のIPAの“高信頼性システム検討会”プロジェクトが発足してからは、部会長のNTT Dataの山本修一郎博士も毎回出席し、国内の研究会とシンク口しながら Dependability Through Assuredness Project をWG活動として展開している。The Open Group は TOGAF という EA のオープン標準を10年掛けて完成してきた背景から高信頼性システムオープン標準と検証というテーマは、米国国防省、国土安全省や宇宙・航空・自動車産業らの強い要請を受けて、EAの最上流からコーディング後のテストにいたるまでの Dependability 標準プラクティスを世界レベルで確立し、その標準に乗った日本発世界が使うツールのオープン開発プロジェクトから、日本の世界に対するITの貢献を確立し、ITの日本パッシング現象を反転させたいというのが私の提案であります。

リクアイアメントから Architecture、ソリューションアーキテクチャーへのブリッジをフォーマルメソッドでリクアイアメントの整合性、設計の整合性、プログラムの正当性を担保するためのベストプラクシスを確立し認証したいというトヨタ ITC、IPA、そして私の2007年4月のパリ会議でのプレナリー会議での提言から始まり世界のオープングループメンバーの注目を受けた。その直後の昨年7月のオースティン会議が大きく動いた。

米国はMITのダニエルジャクソン教授やケステレルのジョーン アントン博士、SRIのジョーンラシュビー博士らの個人的なサポートもあり、ユーザ サイドでは NASA、DOD、レーシオン、ボーイング、ロッキードマーティンらの参画を得て Dependability の分科会の体裁が出来てきて、から継続する体制が出来上がってきた。

今回も、世界的な Dependability の Formal Methods による assuredness の研究や実務家が SRI、MITRE や NICTA、NASA、John Hopkins 大学らの錚々たるメンバーが出席した。

8:30 - 9:15 “Distributed Secure Systems: Then and Now”というテーマで、先ず、あの有名な “MILS”の提案者である SRI International の John Rushby 博士がキーノートスピーチをした。

9:15 - 10:00 Gernot Heiser 博士 ・オーストラリアの NICTA の UNSW, Open Kernel Labs から、“L4.verified: Formal Verification of a Protected OS Kernel”というテーマで、“Secure Embedded L4 OS Kernel”のフォーマルな証明をしたプロジェクト結果の報告が注目を浴びた。これは Haskell で抽象化された要件を Formal 化して書くことが第1次の証明になり、次にCレベルでモデルチェック(フォーマル化)してリファインする方法で、オリジナルコードの4倍以上のブーフ ボリュームになったと報告された。

Haskell は関数型プログラミング言語の”標準語”として、1990 年に 誕生 (Haskell 1.0) した比較的新しい言語だが 1999 年に安定した言語定義 Haskell 98 が制定され、徐々に知名度が高くなっているものを使ったようだ。

【第2日目 (1/29) ハイライト】

2 日目のハイライトはフランスのツールズで 2 月 4-7 日からの週行われる SAE(航空機・自動車製造業会のシステムエンジニアリング研究組織)のアーキテクチャからモデル化、その検証に向かって行くためのアーキテクチャ分析開発言語 (Architecture Analysis & Design Language)AADL 分科会の講師陣ふくめ、トップはすでにフランス入りしているので SFO のオープン会議には出席できないので、午前中フランスからのテレコンと PPT のプレゼンを行ってもらった。

AADL を動かしている人たちは下記のとおりだが、私や Joe Bergmann、RTES の The Open Group Director のコンタクトは Bruce で、この間も 2 時間近く話をした。

SAE AADL Team Members

Bruce Lewis, US Army AMRDEC Huntsville: SAE AS2C Subcommittee Chair Peter Feiler, Software Engineering Institute: technical lead, author, and editor of the SAE AADL standard Steve Vestal, Honeywell Technology Center: originator of the AADL predecessor MetaH and SAE AADL standard co-author Edward Colbert, University of Southern California & Absolute Software: lead of the UML profile for AADL Joyce Tokar, Pyrrhus Software: lead of the Programming Language Compliance Annex かれらから午前中ほとんど AADL と Dependability 開発に絡む概要について説明があった。

UML は、表記法としては広く活用されており、静的概念を表現することは得意だがランタイムやリアルタイムな表現するのに十分なコネクタやポートなく、UML 2.0 ではある程度拡張されたが十分とはいえないので、オープングループが開発した ADL から展開された AADL は、特に「リアルタイムの組み込みシステムに特化している」ということで、米国・EU でもいくつか大きなプロジェクトたとえばフランス・スペイン・ベルギーの Airbus (France) Axlog Ingenierie (France) Barco (Belgium) CEA-List (France) Cetic (Belgium) Féria (France) K.U.Leuven (Belgium) LESTER - Université de Bretagne-Sud (France) SQS (Spain) TCP/SI (Spain) THALES Avionics (France) THALES Communications (France) Universidad de Cantabria (Spain) Verimag (France)ら 15 社でやてきた 2006 年から 9 年まで続くプロジェクト SPICE や 11 カ国 29 社が使っている 2004 年から 2007 年まで続いた ESA(ヨーロッパ宇宙開発庁)がリードした ASSERT プロジェクト(30 億円プロジェクト)で試験的に使われている。

午後は、基本的に日本デーであり、NEC もプリンストン研究所のフォーマルメソッド研究所の 2 名を含めて 5 名参画した。

日本から山本修一郎博士から日本の IPASEC の高信頼性システム検討会の活動報告と“Dependability Architecture のフレームワーク”に関して講演があった。

日本からこの高信頼性検証のテーマではトヨタ、NTTデータ、NECに次いで、エンドユーザとしてはトヨタに次いで JAXA から石浜直樹研究員がこのオープングループSD & AWGに参加され、しっかりと JAXA の独立検査方式によるモデルチェックのベリフィケーションの経験を発表された。私はパネルのモデレータとして、山本氏と共に参加し、今後の方向の議論に参加した。

アジェンダは下記のとうりだが、山本修一郎博士の Architecture のプレゼンも JAXA の経験も日本からのインプットとして、参加者に意義深く受け入れられたと思う。

本来からすれば、日本から三菱重工業、三菱電機、富士重工、石川島播磨、住友重工などの宇宙航空機の IT 技術トップやアーキテクト担当者が本会場を埋めなければならないのに誰も出席が無いのは残念である。

以上